

心臓

人体の機能中、最も重要であるのは、心臓であつて、機能中の王者と言ふべきものである。従つて心臓機能の本体が根本的に判らない限り、眞の病理は確立する筈はないのである。医学に於いても他の臓器は手術が出来ても心臓は出来ないにみても肯れるのである。処が此様に肝腎な心臓機能が、医学では適確に判っていない事である。只僅かに肺臓から酸素が送られ、浄血作用を行う機関位にしか思つていないよう、殆んどるに足らない考え方である。で

は心臓機能の眞の働きとは何であるかを詳しくかいてみよう。

抑々此機能は、靈界と最も密接な関係のある点である。というのは左の如き事を前以て知らねばならない。というのは地球の構成原素である。それは曩に説いた如く三段階になっている。即ち一、靈界 二、空氣界 三、現象界であつて、之を一言にして言えば、一は火素が本質であり、二は水素が本質であり、三は土素が本質である。勿論一は日の精、二は月の精、三は土の精であつて、此三原素の力によつて、一切は生成化育されている以上、人間と雖も其

三原素の力によって、生命を保持されているのは勿論である。

そこで、三原素を吸収すべき主要機能としては心臓、肺臓、胃の腑である。即ち心臓は靈界から火素を吸収し、肺臓は空氣界から水素を吸収し、胃の腑は物質界から、土素を吸収するのである。だから此理を基本として、人体の構成を見ればよく判る。然るに今迄は肺臓は空氣を吸い、胃は食物を吸収する事だけしか判っていなかった。従って心臓が火素を吸収するなどは、全然判っていなかったのである。では何故そうであったかというと、それには理由があ

る。即ち空気も、食物も科学で測定が出来るからであるが、いとり心臓機能のみはそれが不可能であつた。というのは霊界は無とされていた以上、機械的には把握不可能であつたからで、之も無理はないのである。早く言えば三原素の中、二原素だけ判つたが、一原素だけが判らなかつた訳である。処が此一原素こそ、実は二原素以上重要なものであつてみれば、之が判らない以上、完全な医学は生れない訳である。故に今迄の学理は、言わば不具的であつた事は言う迄もない。以上の如く最重要な火素を吸収すべき機関が心臓であつて、水素を吸収するのが肺で、土素を吸収

するのが胃であつて、それによつて人間は生きているのである。

処が病気であるが、病気とは再三説いた如く、毒素の排泄作用であるから、固結毒素を溶解する場合、熱が必要となる。其熱を心臓が吸収する役目であるから、平常よりも余分に火素を要するので、心臓はそれだけ活動を旺んにしなければならぬ。発熱の際鼓動が頻繁なのはそれが為であつて、其際の悪寒は体温を心臓に補給する為不足となるからで、又呼吸頻繁なのは、心臓の活動を助ける為、肺臓は水分を余分に供給しなければならないが、それには熱は

水分を加へる程力を増すからである。又発熱の際食欲不振なのは、消化に要する熱量を、心臓へ奪はれるからである。此様にして毒結の溶解が終れば、熱の必要はなくなるから解熱するのである。之で心臓の实体は掴めたであらう。

